

大塚国際美術館様にて美術作品を鑑賞しました！

2024年1月29日に実施したコンペティション「Beyond30」の参加者が取引先事業者さま等での“体験”を通じて感性を磨く「体験型研修」。

今回は人財創造部の職員が大塚国際美術館様にて美術作品を鑑賞させていただきました。当金庫では今後も職員が自由に学べる職場環境づくりに専念して参ります。

体験の目的／この研修を選んだ理由

美術作品の鑑賞は、視覚的な美しさや感情の喚起、多様な文化や価値観との出会い、そして自己内省の時間等が得られることから、体験型研修の目的である感性を磨くのに非常に有効な手段だと思ったからです。なかでも、大塚国際美術館は、古代壁画から現代絵画まで、世界26ヶ国、190余りの美術館が所蔵する西洋名画1000余点の陶板名画(※)を展示しているため、原画が持つ本来の美術的価値を味わうことができるほか、世界中の名画に触れることで、さまざまな角度から感性を刺激することができますと考えました。

※陶板名画…陶器の大きな板に原画に忠実な色彩・大きさを作品を再現したもの。紙やキャンバス、土壁に比べ色が経年劣化せず、また大きさも原寸大に再現されているため、実際の名画を見るがごとくの迫力や臨場感を味わうことができます。

体験をしてみた感想・学びなど

- ・環境空間ごとそのまま再現した迫力感のある立体展示（システィーナ・ホールなど）では、視覚的な体験が強調され没入感が増すことで、鑑賞を超えた深い感覚を味わうことができました。

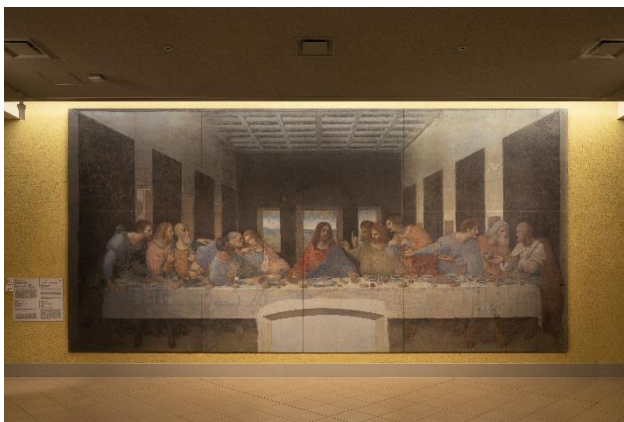
- ・作品が持つ力強さや繊細さ、色彩や構図の美しさから、日常の中で何気なく見過ごしていた美しさや、物事の細部に対する感受性の高まりを感じました。

- ・時代・地域ごとの文化や価値観を感じ取ること、そして、作品に込められた意図やメッセージを読み解くことを強く意識しながら鑑賞したことによって、多様な視点を尊重し視野を広げることの重要性を改めて実感しました。

以上、美術作品鑑賞を通じて得た学びから、職員の異なる視点やニーズ、感情やその背景等を敏感に感じ取り、人事部署として適切なサポートができるよう、これからも感性を磨き続けたいと思います。



ゴッホ
幻の「ヒマワリ」



レオナルド・ダ・ヴィンチ
「最後の晩餐」〈修復後〉



フェルメール
「真珠の耳飾りの少女」

※写真は、大塚国際美術館の展示作品を撮影したものです。